

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 16 号

昭和63年 9 月 5 日発行

編集者 大野良樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市
瀬谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

水産学部の現状と将来（水産学部長 橋高二郎）

職場紹介「総合食品メーカーを目指して」（3F・斉藤 勤）

昭和63年度三水会総会開催

関東地区懇親会に参加して（2A・大山康子）

第15回水産学部体育祭（体育祭実行委員長 古川健一）

三陸事務室の現況（水産学部学生課 熊谷ティ子）

Information

* 銀鮭の養殖を考える会の開催について

* 三水会代議員の改選について

* 北里大学同窓会講演会開催

* 通信販売のお知らせ



関東地区懇親会風景

講演会風景





水産学部の現状と将来

橋 高二郎

我が学部も開学十七年目を迎えました。歴代の学部長をはじめ、教職員、学生の一体となつての奮斗が今日の発展をもたらしたことに学部の一員として常々、誇りを感じております。

数年前までの学部は学生数が定員に満たない年もあり、経営的に苦しい状態に立たされていました。しかし、最近のバイオサイエンスに対する関心の高まりと、就学年令層の人口の増加から、漸く収支に黒字の兆が見え隠れするようになりましたことは、まことに喜ばしい限りであります。これも一重に、卒業生各位の在学中の努力はもちろん現在に至るまでの学部に対するご支援の賜と心より感謝致しております。

この発展の時期に学部長に就任することになり、その責任の重さを痛感しておりますが、皆様のご支援、ご鞭撻を得て、学部の一層の充実発展に努力したいと念願しております

のどうか宜しくお願い申し上げます。

水産学は従来、食糧生産の科学として発展してきました。この分野の研究は今後も水産学の中心課題でありましょうが、社会の要求と科学の進歩は海の生物資源の他方面の利用を将来の重要課題に位置づけています。学部の教員はこれらのいずれかの分野で研究を積み重ね、すでに学会で高い評価を受けている成果も続々現れています。しかし、多くは実験段階で、中にはまだ空想に止まっている課題も多々あると思います。空想が創造的発想へ転換するにはある程度の時間が必要ですが、三陸はそのためには大変に恵まれた環境にあると思います。学園が二五周年記念事業として設立した学術研究基金をはじめ学部のもつ種々の予算が研究の前進に経済的に寄与していることは大変有難いことと思っています。学部の教育環境も年々整備されてきました。今年は実習室にビデオ装

置が導入され、顕微鏡実習等に使用されるようになります。講義室の改修、食堂の改善も検討されています。殺風景であった校舎の周辺も、石垣、花壇、左右の正門と整備され、開学以後十五年の歳月を經過した学園としての落着を備えるようになりました。

大学の周りの自然はこれまで以前のままです。今年の三陸は例年よりも梅雨が長く、またやませのもとたす霧が道に立込めています。志学荘の空地には何時とはなく双児の子狐が住み着きました。研修所の裏庭では、若い雄鹿がまるで運動場のように駆け廻っています。野生動物は増え、人をあまり怖れなくなったように思えます。

しかし、自然の豊かな三陸で、最近一つの憂うべき出来事を知り啞然としました。研修所の下のスロープ——多分皆さんの誰もが素足で浅瀬に入り、短い夏の水泳を楽しんだ思い出のある、また新参の潜水部員が鍛えられ、ヨット部員が艇の引き揚げに汗を流した海岸——の埋立工事が始まったのです。水産を学ぶ者として便利な漁港を利用したいとの漁業者の気持はよく理解できます。しかし、それ以前に海はみんなのもの

であり、いろいろの目的で、調和を保ちながら利用されるべきです。水遊びは最も基本的な利用の仕方であり、その場所の少ない三陸では残すべきであったと残念に思っています。

この例は善悪のはっきりした場合ですが、複雑な要素を孕む水産業と他産業との対立の解決は水産学の真剣に取り組むべき将来課題と思います。

三陸に進学する学生の気風にも長い間にかんりの変化が目立ち、最近の若者は温和しく画一的になつてきたことが指摘されています。これも現行の入試制度のせいでしょうか。志願者の偏差値を高めることも重要（しかし困難）ですが、その反面偏差値にとらわれないやる気のある学生の確保は一層重要な課題となっています。全国に散在する卒業生の組織は水産学部に適した将来性ある人材の発掘に機能できるのではないのでしょうか。今後の重要な検討事項かと思ひます。

学部発展のため、今後共ご協力賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶と致します。

職 場 紹 介



総合食品メーカーを目指して

ヤヨイ食品(株)東京支店勤務

3 F 齊 藤 勤

ヤヨイ食品は、昭和二十二年から昭和三十九年まで、対米冷凍魚類及び缶詰の生産輸出を行ってまいりましたが、輸出不振から缶詰工場を冷凍食品工場に切り替え、その後冷凍食品の需要急増に伴い増強を図り、現在は調理冷凍食品だけでなく、レトルト食品の生産を手掛け、年商二三〇億、従業員が千名以上になり、総合食品会社を目指しております。 本社は、静岡県清水市にあり、工場を清水と気仙沼に置き、九九%業務用食品を生産している為、知らない人がほとんどだと思います。現に私も入社するまで全く知りませんでした。業務用調理冷凍食品としては、日本一だと思って結構です。生産している商品は、コロッケ、メンチ、ハンバーグがメインで千種類ほど商品があり、販売市場としては大きく三つのマーケットに販売しております。

一、家庭マーケット

量販店・小売店・市場・宅配 他
二、外食マーケット
レストラン・テイクアウト弁当
調理パン 他
三、給食マーケット
産業給食・学校給食・病院 他
私は現在、販売部で東京支店に勤務しており、三、給食マーケットの責任者として努力しておりますが、販売ルートがある程度決められている中で予算を達成させるのに、苦労しております。

ヤヨイ食品がいかに皆様にご利用戴いているか説明しますと、スーパーの惣菜コーナーにある私どもで開発した生パン粉を付けた手作りコロッケは九五%以上、お肉屋さんのフライ類は六〇%、宅配で販売されているお弁当のおかずセット・ファミリールーランのフライ類は、ほぼ一〇〇%が冷凍食品を利用しており、私どものコロッケやクレープの皮をすかいらーく等で利用して戴いてお

ります。皆様が昼食やレジャー等で利用するテイクアウトのほかほか弁当の幕の内材料、牛丼、とんかつまでが冷凍食品を利用しており、冷凍技術の進歩により冷凍だからまずいと言うのではなく、冷凍食品だと知らずに食べているのが現状です。

また、パン屋さんの調理パンに挟んであるハンバーグ・コロッケ・メンチ、はたまた焼そば・グラタンまで冷凍食品を利用しているのです。急成長企業であるコンビニエンスストアのお弁当・調理パンにも利用して戴き、近年は売上アップに貢献してもらっております。

私の販売マーケットは給食と言う事で、現在六名で内一名は工場実習を終え、六月より配属になった新人水産学部一三期卒業生の河原君で、アメラグをやっていたと言う事でなかなかガッツがあり、期待しております。給食マーケットの販売先は、産業給食が中心で、各工場や事業所の食堂、仕出し給食業者への売り込みが主で、私が十年前に入社した頃は、ヤヨイ食品の名刺を出すだけで商品を買ってくれた時代でしたが、現在は競争メーカーが多く出てきており、大手市販メーカーの参入により安売りがあつたりして苦労してお

ります。学校給食においては、若い女性?の栄養士さんにPRするわけですが、二、三カ月先の献立を考えたり、それに合わせて季節感のあるもの、例えば九月のお月見であれば、白玉だんご・串だんご・月を型どったお月見ゼリーといった子供たちが喜び、楽しい給食が出来るようなメニューを考えて、提供するわけです。又、病院に対しては、医療食料として首都圏だけでも毎月二十万円ほどの売上があります。以上のように冷凍食品は幅広い分野で利用されており日本人一人当りの消費量は年間約四四弱、他の先進諸国は七割以上も消費しており、まだまだ伸びると考えております。

最後に私の職場として実現させた事は、近い将来、北里の卒業生だけで、営業所あるいは支店を作りたいて考えております。現在販売部員が百名以上おり、その中で北里の卒業生も十数名になっており全国の各支店営業所でみんな頑張っております。



「昭和六十三年度三水区総会開催」

去る五月二十二日(日)午前十一時より、白金校舎北里本館二階大会議室において、昭和六十三年年度本会通常総会が開催され、本年度の事業計画、予算等が審議、決定されました。

総会は、代議員本人二十五人、委任状出席一三の計三十八人の出席のもとに開催され、六十二年度事業報告、決算についての報告を受け、これを承認した後、会報の発行、各種親睦会の開催等と内容とする六十三年度事業計画、予算案について協議を行い、原案どおりこれを承認しました。

総会終了後、午後一時より同会場において講演会を開催し、水産学部橘高教授より、三陸の現況、研究内容等についての講演をいただき、スライドをまじえての講演に参加者は懐かしくまた熱心に聞き入りました。講演会終了後、懇親会が催され、橘高先生を始め、P A総会に出席のため上京中の太田学部長、神谷先生も参加され、懐かしい話が交され楽しい一時が過ぎました。

総会において承認された本年度の事業計画、予算は次のとおりです。

昭和六十三年度三水区事業報告

- 1、会報の発行
同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を六十二年九月と六十三年三月の二回発行した。
- 2、「水産学部だより」の配布
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布した。
- 3、会員名簿の配布
本会会員名簿(都道府県別・職域別索引付)を作成し、全会員に配布した。
- 4、会員の現況の把握
全学同窓会と連携し、事務局を中心に不明会員の調査等を行い、名簿情報の正確性の向上に努めた。
- 5、同期会等の助成
申請のあった講座別同窓会、同期会等卒業生の集会の費用の一部を助成した。
- 6、講演会の開催
六十二年五月に児玉教授に協力願ひ、学術的な発表、大学の現況

等についての講演会を白金校舎にて開催した。

7、親睦会の開催

会員を対象とした親睦会を白金校舎、千葉県および新潟県にて開催した。また、水産学部学生との懇談会を東京において開催し意見交換を行った。

8、学友会助成

大学祭、体育祭費用の一部を助成した。

9、就職ガイダンスの開催

1、会報の発行

同窓生の動向、学部の現況、各

10、漁船海難遺児育英会寄付

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行なった。

昭和六十三年度三水区事業計画

昭和62年度三水区収支決算

63.5.22

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
1. 事業費	3,300,000	3,352,711	1. 部会助成金	4,200,000	4,197,249
(1)会報発行費	930,000	1,100,921	2. 預金利息	70,000	43,269
(2)学部だより配布費	300,000	293,700	3. 前年度繰越金	895,045	895,045
(3)会員名簿配布費	400,000	514,000	4. 雑 収 入	150,000	230,000
(4)同期会等助成費	100,000	30,000	5. 1～7期生終身会費	100,000	5,000
(5)講演会費	70,000	57,840			
(6)親睦会費	1,000,000	1,030,290			
(7)学友会助成費	250,000	150,000			
(8)就職ガイダンス費	150,000	75,960			
(9)漁船海難遺児育英会寄付	100,000	100,000			
2. 運営費	1,700,000	1,596,948			
(1)印刷・通信費	450,000	331,026			
(2)会 議 費	300,000	391,872			
(3)総 会 費	200,000	202,920			
(4)事務局費	600,000	534,270			
(5)慶 弔 費	50,000	65,000			
(6)外 渉 費	100,000	71,860			
3. 予備費	415,045	420,904			
(1)予備費支出					
(2)次期繰越金		420,904			
合 計	5,415,045	5,370,563	合 計	5,415,045	5,370,563

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
1. 事業費	3,080,000	1. 部会助成金	4,329,459
(1)会報発行費	850,000	2. 前年度繰越金	420,904
(2)学部だより配布費	300,000	3. 預金利息	70,000
(3)同期会等助成金	100,000	4. 雑 収 入	150,000
(4)講演会費	80,000	5. 1～7期生終身会費	100,000
(5)親睦会費	800,000		
(6)大学・学生懇談会	300,000		
(7)学友会助成金	250,000		
(8)就職ガイダンス費	100,000		
(9)漁船海難遺児育英会寄付	100,000		
(10)全学講演会関係費	200,000		
2. 運営費	1,780,000		
(1)印刷・通信費	380,000		
(2)会 議 費	400,000		
(3)総 会 費	250,000		
(4)事務局費	600,000		
(5)慶 弔 費	50,000		
(6)外 渉 費	100,000		
3. 予備費	210,363		
合 計	5,070,363	合 計	5,070,363

- 種の情報等を内容とした会報を二回発行する。
- 2、「水産学部だより」の配布
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。
- 3、会員の現況の把握
全学同窓会と連携し、不明会員の調査等名簿情報の正確性の向上に努める。
- 4、同期会等の助成
同期会、講座別同窓会等卒業生
- 5、講演会の開催
の集会の費用の一部を助成する。
- 6、親睦会の開催
会員を対象とした親睦会を、総会終了後並びに関東地区及びその他地区において開催する。
- 7、懇談会の開催
大学、水産学部在学生との懇談
- 8、学友会助成
会を開催し意見交換を行う。
- 9、就職ガイダンスの開催
体育祭費用の一部を助成する。
- 10、漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした
- 11、全学同窓会講演会に対する協力
本年度、全学同窓会が三陸町において開催する講演会の開催について、講師依頼、会場設定等を全学同窓会の委託を受け行なうとともに、水産学部・地元への広報活動等について協力する。



関東地区懇親会に参加して

2A 大山 康子

去る六月十二日、恒例となりました三水会関東地区懇親会が山梨県の「秋山村々営ます釣り場」にて開催されました。当日は、予想どおり梅雨空でしたが、会員とその家族およそ百名が集い、釣りとおしゃべりに興じました。

元水産学部生らしく車からおりるとすぐ釣り場へ向かい、高等技術者を競う者、子供たちに釣りを教える者、「飢えた魚を投入せよ」と暴言をはく者：小雨などものともせず、皆それぞれに本領発揮といった所。そのうちに香ぐわしきバーベキューの煙

が川面に漂いはじめ、胃のふを刺激された釣り人たちは一人、二人とおしゃべり会場へと赴きました。

川の家(?)にて、釣り上げたばかりのニジマスや野趣あふれる料理を味わいながら、久し振りに会う友の近況に耳を傾ける楽しい一時。

短い半日の間に、かの三陸を懐かしみ涙するにはまだ若すぎる私たちは、かけまわるオチビさんらを追いかけながらの井戸端会議に終始致しました。積もる話は山ほどあるはずなのに、出席された人、又その間に見える様な気がする欠席された人の顔

に出会えれば、それでヨシといったところでしょうか。

私たちは、三陸でのまだ精神がマグマの時期、行動を規制するのは自分の意志―弱さを含めての意志―だけという「自由」な環境を与えられました。どれだけその環境が貴重であったか……。十年の月日がたち、熱きコントン人間達は、様々の組織に属し活躍中で、学生時代に得たたくさんの宝物を忙しさの中で忘れてしまひそうです。

幸いにも私は、同級のダンナ様と、二人の息子と、魚と、大自然(田舎)に恵まれ、学生気分そのままの「マ

グマ主婦」を氣どつておりましたが、懇親会へ出席するたびに、ふとタイムスリップした様な、忘れていたほろ苦い青い感傷がよぎるのは、やはり冷えてきた証拠かも知れません。

更年期ではありません！
年に一度、色々な想いを胸に、緑

いっぱいの山で井戸端会議というのも、オシャレですね。

ほら、雨も上がっています。もう一度釣り場へまいりましょうか。

最後になりましたが、毎年懇親会を企画して下さいます三水会役員の皆様に感謝申し上げます。

第一五回水産学部体育祭

体育祭実行委員長 古川 健 一

第一五回北里大学水産学部体育祭が去る五月二十八、二十九の両日、三陸キャンパスにて開催されました。昨年は低気圧の接近による豪雨のため、野外で行う種目は全て中止されましたが、今年は時折小雨混じりの天気も選手達の競技に対する熱意でのり越え、全種目を行うことができました。

初日、朝九時に大学をスタートした恒例の駅伝は、全区間二三・三kmを五区間に分けて行い、体育会クラブ、有志など一七チームが参加しました。起伏の多い駅伝コースを主催者側の予想を上回る全チーム二時間以内の記録でゴールし、日頃の練習の成果と「水産魂」をまざまざと感じさせてくれました。



午後より同時進行したソフトボールとドッジボールは、両競技かけもちの参加チームが多く、試合が重なりプログラムが遅れるというハプニングも起こり、最後の試合が終ったのは午後七時頃となりました。

二日目は晴天のグラウンドでソフトボール上位戦、体育館でのバレーボールで競技が始まりました。上位戦に近づくほど、攻守一体の好ゲームが見られ、選手も応援する者も盛り上がりました。体育会クラブだけでなく、下宿などの有志チームの健闘も光り、トーナメント上位戦では試合が連続するあまり参加選手から「飯も食う暇がない」という苦情ま

で飛び出すほどでした。

午後は体育館内で綱引き、棒たおし、かめめの玉子の早食い競争、腕相撲大会と水産学部ならではの競技が行われ、選手と観客が一体となり、楽しいうちに二日間の日程を終えました。

閉会式には、太田先生、大場先生をはじめ多くの学生が残り、参加賞として全員に水産放浪歌の歌詞の入った手拭が配られました。今回の体育祭は実行委員会の多々及ばぬ点も参加者達の努力と熱意で補われて、無事に終了することができたと思っています。そして改めて水産学部三陸キャンパスの素晴らしさを再発見できたと同時に、水産学部学生のこの地で培われた「何事にも屈しない精神」を感じることができました。

最後になりましたが、今回の体育祭開催について、体育会本部、文化会、執行委員会、北里会、三水会およびその他の皆様の御協力に対し、この場をおかりして実行委員一同より、心からお礼を申し上げます。



三陸事務室の現況

水産学部事務室 熊谷 ティ子

卒業生の皆様お元気でご活躍のこ
と頼もしく存じます。

今年は、全国的な冷夏ですが三陸
もまた例外ではありません。

水産学部では前期試験・恒例の英
語の補講も終了しました。本年度よ
り追再試験が十月になることや入試
事務を学部で行なうことで、予想さ
れる事務の複雑さを思うと夏休みは
何かと気ぜわしいのが実情です。

総務課では第二校舎の学生実験室



視聴覚機器(ビデオ装置)設置工事、
グランド工事、体育館トイレ改修工
事等の仕事で、環境整備は着々と進
められていますが、工事は夏休みに
集中しており担当者はつらいところ
です。

学生課では川内先生が課長に就任
されました。現在、就職事務に時間
を追われていますが、いかに効率よ
く業務を進めていくか検討中です。
今後、三水会員の皆様には絶大なる
ご協力を依頼することになることと
思います。

図書館では児玉先生が館長に就任
されました。二年に一回発行される
業績集の発行も終了し一段落したと
ころですが、特徴ある図書館には休
みはないようです。

次にメンバーについて紹介すると、
外山事務長を始め、総務課は千葉係
長以下、中嶋さん、藤澤さん、野間
さん(旧村上)と今年採用された二
階堂史浩さんです。

教務課は、遠藤さん、東さん(旧
千葉)、佐藤さん(旧汐谷)の三人が

頑張っております。

図書館は、米田さんを始め、刈
谷(旧上村)、及川さん(旧柳本・衛
生学研究室)、佐藤さん(旧及川)の
四人で、相変らず華やいだ雰囲気
を醸し出しております。

研究補助員の菊地さん(病理学研
究室)は、研究協力室も兼務し、臨時
の方と、各研究室の事務業務等の協
力をこなしております。

私の在籍する学生課は、松島さん
と二名で頑張っております。昨年十
一月には、学生が自動車事故で死亡
するという深刻な事態も発生してお
ります。学生諸君にはくれぐれも自
重して欲しいものです。

以上、事務室業務、人事について
の近況および現況をかいつまんでお
知らせいたしました。終わりに三水
会の益々のご発展と会員諸兄のご活
躍をお祈りいたします。

計 報

去る七月十一日、増殖学科一
期卒業の島谷 正氏(環境生態
学講座・元東京都海洋環境保全
協会小笠原海洋センター勤務)
が逝去されました。
ここに慎んでご冥福をお祈り
いたします。

「松浦前学長の叙勲について」



水産学部学部長も務められた松浦前学長
が、春の叙勲において、これまでのご功績
に対し「勲三等旭日中綬賞」をお受けにな
られました。心からお喜び申し上げますと
ともに、今後のご活躍をお祈りいたします。

「水産学部の先生方の表彰について」

川内教授、村本助教が北里研究所より
次の表彰を受けられました。心よりお喜び
申し上げます。

第一回北里柴三郎記念賞

水産利用学講座 川内浩司教授

「悩下垂体ホルモンの分子進化ならびに
構造と活性に関する研究」
(昭和六十三年三月北里研究所より表彰)

第三回二宮善基記念賞

水産衛生学講座 村本光二助教

「アカフジフボレクチンのアミノ酸配列」
(昭和六十二年九月北里研究所より表彰)

From 事務局

事務局の変更 のお知らせ

これまで事務局をお願いしてきました井川さんがご主人の転勤のため退職されましたので、新しい事務局を増殖学科4期卒の石井美華さんをお願いすることといたしました。これまで同様お気軽にご連絡等をいただきますようお願いいたします。

(三水会事務局)

〒246 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷

5-22-1 (石井方)

☎ 045-303-3135

銀鮭の養殖を考える会 の開催

本会会員で銀鮭の養殖に関係した仕事をされている方を主な対象とした標記シンポジウムを、水産学部小林教授のご協力を得て、下記により開催いたします。銀鮭養殖に直接関係しない方でも興味のある方は是非ご参加ください。なお、詳細につきましては、事務局へお問い合わせください。

開催日時：昭和63年10月2日(日)
午後1時～

開催場所：北里本館2階大会議室
(港区白金)

テーマ：①銀鮭の種苗生産の問題
点について

②銀鮭の流通状況について

③その他

終了後、懇親会を予定しております。

北里大学同窓会講演会 の開催について

各学部同窓会の回り持ちで全学同窓会が毎年開催しております標記講演会を、本年度はムツゴロウこと畑正憲氏を講師にお願いし三陸町において開催いたします。この機会になつかしい三陸を訪れようと思われる方は是非ご参加ください。

開催日時：昭和63年10月30日(日)
午後1時30分～

開催場所：三陸町公民館
(浦浜、三陸町役場隣)

三水会代議員の 改選について

任期満了に伴う三水会の代議員及び理事の改選を、本会規約に則り、昭和64年度本会総会において行います。

つきましては、代議員の推薦(自薦、他薦)を下記により受付けますので葉書に、氏名、卒業年度、学科、卒論講座名、住所、電話番号、他薦の場合は推薦者名を記入し事務局宛お送りください。

代議員資格：三水会正会員

応募期間：昭和64年3月31日まで

From 三陸町

旬の味覚をどうぞ・とれたての アワビ・海鮭などの通信販売

三陸町では、年末年始の食卓にふさわしい海の幸の予約申込を受付けることにいたしました。

11月から12月にかけて大量水揚げされる海鮭やアワビなどとれたての海産物を中心に販売する予定で、詰合せも行います。

是非お申込みをいただき、『水産の町三陸町』を味わってください。

・予約申込期限：昭和63年10月31日

・商品発送期間：昭和63年12月中旬

・申込方法：同封の葉書または官製葉書に数量、送付先電話番号をご記入のうえ、下記であてお申込みください。

〒246 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1
三水会事務局(石井方)

・支払方法：商品に、郵便振替用紙を同封いたしますのでご送金ください。

・問合せ先：岩手県気仙郡三陸町綾里字宮野40-1
綾里物産観光センター「銀河」

☎0192-42-2541

番号	品名	単価	内容
1	活アワビ	1個 約800円	1個約120g (1kg=7~10個)
2	活海鮭	1本 約1600円	銀系オス3kg級の魚体
3	活海鮭	1本 約3500円	銀系メス3kg級の魚体
4	ホヤ	3kg 300円	約15~20個入
5	ホタテ	10枚入 1300円	殻長約10cm
6	塩蔵わかめ	1000円	500g×2袋

(注)1~3については、申込期限後でなければ単価を決めかねますので、一応昨年の単価を参考にいたしました。したがって納品単価は多少の増減がございますのでご了承ください。

なお上記単価は送料別の単価であり送料は距離により660~960円です。(4kgまで、東京の場合は810円)